

主体的に学び合う生徒の育成 ～協働学習を生かす授業を通して～

岩見沢市立緑中学校 学級数 11 (校長 日比生 究)

I 実践テーマの趣旨

本校では、ペアやグループでの学習活動において、生徒の発言が少なく、個人思考の場面で学習内容の理解が不十分な生徒が見られたことから、全ての生徒が学びに向かい「確かな学力」を身に付けられるよう、生徒の「発信力」や「メタ認知力」の育成を図ってきた。

II 実践の概要

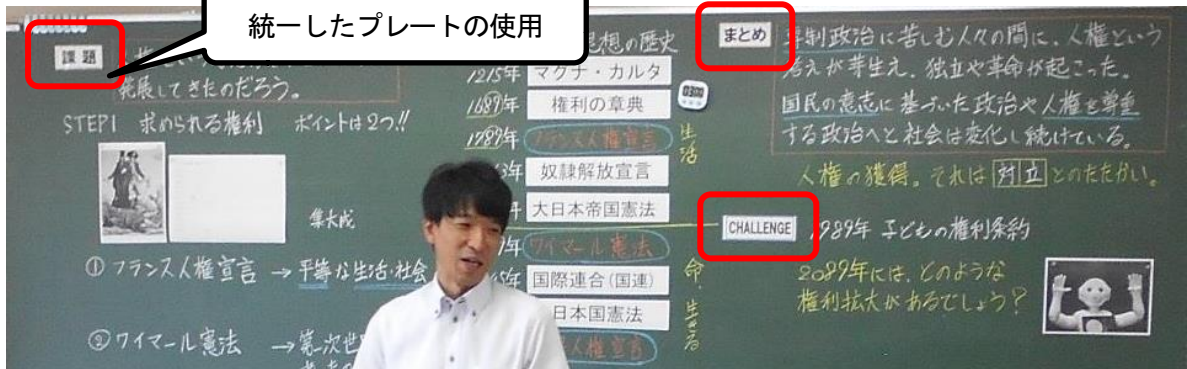
1 「メタ認知力」の育成

(1) 学習過程を振り返ることができる板書の工夫

生徒が本時の学習に見通しをもつとともに、振り返ることができるよう、学習過程を統一し、「課題」「まとめ」「challenge」のプレートを全教科で統一して使用するなど、構造的な板書の工夫を行っている。

- 1 本時の課題
- 2 「challenge」の課題に取り組む前の基礎的な知識の理解
 - ・ 4人グループやペアでの学び合い等
- 3 まとめ
 - ・ 本時の学習内容を、全体で共有
- 4 「challenge」の課題

【統一した1単位時間の学習過程】



【学習過程を振り返ることができる板書の工夫】

(2) 「challenge」の課題の設定

「challenge」の課題の難易度を高く設定することで、学習内容の理解が不十分な生徒が、考え方を他の生徒に問いかけながら課題に取り組み、本時の学習内容の基礎的な知識等の理解を深め、分かる喜びにつなげることができた。

また、学習内容の理解が進んでいる生徒は、他の生徒に教えることで自己有用感や学習意欲の向上につながるとともに、学習内容の理解を深めることができた。

「challenge」の課題に取り組む際には、教師の説明や指示を少なくし、4人グループを形成する中で、個人思考から協働的な学びにつなげ、生徒が主体的に学習を進めている。

また、協働的に学ぶ場面では、自分の考えを発信し、他の生徒の考えと自分の考えを結び付けながら学び合う中で、自分の考えをより確かなものや深いものにできるよう工夫している。



【4人グループで学び合う生徒の様子】

- ・ 基礎的な事項を発展的に利用した課題
- ・ 多様な見方や考え方ができる課題
- ・ 解けそうで解けない興味をそそる課題
- ・ 読みを深める課題
- ・ 50字～100字で答える課題

【「challenge」として設定した課題の内容】

III 実践の成果と課題

- 4人グループ等による協働学習を行い、生徒同士で課題を解決することで、生徒の学びに向かう意識を高めることができた。
- 「challenge」の課題を検討することにより、教員の授業改善の意識を高めることができた。
- 「challenge」の課題を、1単位時間又は単元（題材）レベルで年間指導計画に位置付ける必要がある。



【近くの生徒と確認する生徒の様子】